

## 弔辞の葉

### 弔辞の意味

弔辞とは、故人に捧げる別れの言葉です。葬儀の際、故人に向かって、語りかけるように述べるのが弔辞で、言いかえればそれは、故人への最後の手紙とも言えましょう。

弔辞とは、死者との対話です。威厳のよさも、華やかさも必要がなく、「悲しい死を慰める」という基本にたち、自分の心のままに、故人を失った悲しみを語ります。故人の霊を慰めると同時に、悲しみに沈む「遺族を慰める」言葉も忘れてはならない大切なことです。ですから、弔辞を作る場合、全体の構成と一つ一つの言葉使いにも慎重にならなければなりません。

### (留意点)

- ・むやみに感傷的な言葉を並べない。
- ・美辞麗句をいたずらに使わない。
- ・自分本位の個人的な話題は避ける。
- ・忌み言葉に気をつける。

葬儀では以上のことに気を付け、述べる側と個人との関係を考えた上で、弔辞全体調子を決め、その立場にふさわしい弔辞を述べます。

### 弔辞の構成

弔辞の構成は、大きく分けて「出だし」「主題」「結び」の三つに分けられます。述べる側と故人との関係などもふまえてまとめてゆきます。

出だし	・初めの言葉 ・故人の死に対する驚きと悲しみの言葉
主題	・故人の人柄を表す言葉 ・故人の功績や業績をたたえる言葉 ・故人とのかかわりやエピソード ・残された者の責任と故人への誓いの言葉
結び	・遺族への励ましと慰めの言葉 ・冥福を祈る結びの言葉

### 奉読の作法

司会者に呼ばれたら、霊前に進み、まず御導師、遺族席に一礼をします。次に遺影に一礼して弔辞の包みを開きます。そして以下の順序で行います。

1. 右手で持っていた弔辞を両手で持ち直し、丁寧に包みから取りだしま

す。

2. 上包みをたたみ、側卓に置く。  
(もしくは懐にいれるか左手に持つ)
3. 手に持った弔文に右手を添え置く。
4. 両手で捧げ持つようにし、目の高さに差し出し語りかけるようにゆっくり読み上る。
5. 読み終わったら、もとのように包みに戻し、表書きを霊前に向け卓上に置く。  
(弔辞は供えずに、持ち帰ってもかまいません。)
6. 遺影に一礼したあと御導師、遺族席に一礼して席に戻る。

弔辞は、読み上げるだけで持って帰ることもあり、また、病気や諸事の都合で葬儀に参列できない場合は、弔辞をテープに吹き込んで代理の者に持たせ、それを回してもらうこともあります。

葬儀場へは、ふくさで包んで持っていくのが正式です。用意出来ない場合は、きれいな紙に包んでもっていきます。

#### 弔辞の読み方

弔辞は故人へ語りかけると同時に、その遺族や参列者にも聞いてもらうものです。ですから、耳で聞いてわかりやすい言葉や発音しやすい言葉を選びます。

- ・低く静かに
- ・ゆっくり一語一語かみしめるように
- ・心をこめ、ていねいに

弔辞を読むときの感情表現はむずかしく、悲しみをそのままストレートに表現したのでは、かえってわざとらしくもなり、また、あまり形式ばった言葉や美辞麗句の羅列でも困ります。格式のある弔辞とは、故人を追悼し弔う心のあり方が、素直に文章の中ににじみ出ているものといえましょう。

朗読の途中、涙があふれ出てきたときは涙をふき、おえつがおさまってから朗読を続けます。このような場合、朗読がつかえても失礼になりません。

#### 弔辞・忌み言葉

弔辞の中では、「重ねる」「くりかえし」を意味する言葉は使わない習慣になっています。これらの言葉は、死と言う不幸が重なって、度々会ってはこまるということからきています。

死を直接表現する言葉避けます。

仏式の場合は「迷う」「浮かばれない」などは成仏出来ないという意味が含まれますので、忌み言葉とされています。迷信といってしまうえばそれまでですが、

気にする人がいる以上避けるべきでしょう。

(忌み言葉)

ふたたび・再々・再三再四・またまた・重ねがさね・繰り返し・追って・かえすがえすも・まだまだ・重々・重ねて・たびたび・なおなお・いま一度・かつまた・引き続き　　・迷う・浮かばれない・やがて・近々・また・死亡・死去・さぞさぞ・皆々様・まこ　　む・朽ちる・倒れる・再度・さらに・つまる・九・四・今度・ついで・・・・等です

弔辞文例の定型

社長の死を悼む（社員代表の弔辞）

本日、故〇〇社長の葬儀が執り行わらせるにあたり、我々××社従業員一同はここに謹しみて故社長の霊前に、心から敬慕の情と、哀悼の誠を捧げます。

私共の社長、社長の逝かざるや、誠に突然でありました。ただかりそめの御病氣とばかり思っておりましたのに、かくまで、にわかに他界されようとは、全く信じられなかったのであります。

しかし、今や我々はこの悲しむべき現実の前に、ひとしく首をたれ、慈父と慕い、恩師と仰ぐ人の面影を追うより他ないのであります。

かえりみれば、在りし日の社長は、私共にとって実に偉大なる存在でありました。社長自ら制定されました「××社の実践綱領」は、社長の御生前において率先お示しになった信条であり、今では、我々に対する尊い御遺訓であります。

ことに社長が我々従業員を見ること家族のごとく、家長として各個の自由を尊重され、従業員的生活、福祉に絶えず留意されたことは感謝に堪えないところであります。そのためにこそ我々は御願憂いをなくして、業務に昇進することができたのであります。また働きよい社、住みよい社として、常に親しみと感謝を持つことができたのであります。

本年一月、我が社は創業四十周年の記念日を迎え、社屋において祝賀の宴を催しました。その時社長自ら勤続者の表彰を行い、宴会場に臨んで我々従業員と共に時の移るのを忘れて談笑せられました。思えば我々と席を同じくせられたのは、その日が最後でありました。その後は今日まで、私どもは社長の温顔をこの社内に迎えることなく、自邸に病を養うと聞いては一日も速やかに癒ゆることのみ祈っておりましたのに、ついにそのことなく、永眠されましたことは、今に至って尚、私共に、その事実を疑わせる思いがいたすほどであります。

しかし、我々の前には社長の霊柩が安置され、我々従業員は今まさにお送りしようとしているのであります。

我々は今、悲痛傷心のうちにありますが、おのおのの仕事は決して忘れてはおりません。

幸にして社業はいよいよ盛んなるものがあります。我々従業員は御遺訓を守り、社長の精神を永久に生かすことを、心から願いつつ仕事にはげむものであります。

願わくば社長、我々の哀情を受けさせられ、安らかに永眠されんことを。

#### 協同組合長の死を悼む（幹部組合員の弔辞）

謹んで故〇〇氏の霊に申し上げます。

時代の推移にともなって古い機構を脱皮し、新しい機構のもとに我々××業者のよりよき社会をつくるべく、不屈の努力を続けて、その達成につとめてまいりました我々が××協同組合も幾多の苦難を重ねて、漸くその役割の重要性が一般に認められるようになりました。

ここに至りますには、高邁なる人格と鋭敏なる時代感覚をもってさまざまな困難を克服し、私達の協同組合を導いて下さった〇〇理事長の功績は実に大なるものであります。今、氏を失ったことは誠に残念であり、惜しみてもあまりあることとございます。氏のことに処しての実力は無論豊かなる御経験と天才のしからしめるところではありましようがまた、若い人々にも劣らぬ情熱と誠実とそして飽くなき奉仕の精神にあずかって大なるものがあつた、と私は考えるのであります。

〇〇氏の訃報に接しまして、組合員一同、暗然たるものがございました。しかし時の流れは刻々と進みつつあります。〇〇氏の御逝去に對してはいたずらに嘆き悲しんで、氏の追憶にのみふけていては、かえって氏の生前の本意とするところにそむく結果になってしまうのではないのでしょうか。

氏は個人的にゆとりもあり、磊落であった反面公人としては絶えず協同組合の発展と私達すべての、ひいては社会全般にわたっての福祉を考えておられました。

今、〇〇氏の死を心から悼むと同時に、氏亡きあとの協同組合の運営に固く期するところがなくてはなりません。種々の障害や困難な事情も生じることと思いますが、私達は次の組合理事長の才幹と人格を中心として、今後の発展に全力をあげて邁進し、私達の組合の歩みがより強く、より健全であるならば、あの世にあって〇〇氏も喜んでいただけるものと信じます。氏の

逝去が私達に大きな悲しみをもたらしましたが、それにも増して、より大きな鞭撻を与えられた結果となるように、私達も努力しなければなりません。

ここに、私達は××協同組合理事長〇〇氏のご逝去を深く悲しむと同時に、氏のご遺志が私達の悲嘆の中に埋もれて果てることなくより大きな希望のもとに活動を続け得るように努力することを誓って弔辞といたします。

#### 友人の死を弔う（旧学友の弔辞）

〇〇君

君はいま恩師、家族、親戚故旧多数の方々に囲まれて黄泉のスタートにたっている。この際、我々五人の者は四十年にわたる数々の思い出を込めて、涙とともに最後の一言を捧げなければならぬとは、全くもって予想しないことだった。

君は一生にわたって常にトップを切る男だった。試験の答案を一番早く出すのは君だった。僕らが図画や工作の宿題に苦しんでいる時、君はゆうゆうとしかも立派に仕上げて提出していた。

特にオルガンの練習を最も苦手とした同輩は君が奏でる妙なる楽音に聞き惚れたものだった。こうして卒業にトップで切っておした君はその後の一生をとおし、地位において名声において、はたまた生活において常に我々のトップであったことは勿論、同窓、同僚の間においても優に一頭他をぬいていたこと、五人の我々は一つの大きな誇りにしていたものである。特にトップ中のトップは恩師××先生を導師としてお迎えしたことである。若冠にして学窓に学んだ最初の我々に温かい薫化をたれられた先生が三十年後の今日このとき、君の幽明堺を異にする最後にあたり、万障を排して君を引導して下さったのだ。初めて教わった先生に導かれて、あの世に旅立つという話は寡聞にして未だ耳にしたことがない。君は実にしあわせな男だぞ。

君の若いころは苦労が多かった。文字通りの苦学業で、今でいうアルバイトの数々も経験し、時には学資につまって休学したことも一再ではなかった。しかもその苦悩も他の訴えず、自主独立の気性をもって勇往邁進し、見事に突破してきた。

徳にその茨の道を、いつもユーモアで克服し、洒落を言いながら踏破してきたものだった。あの巧妙なおどけ、当意即妙な酒脱さは、おそらくは君の苦斗の産物であつたろうし、またそれがどれだけ君の人生の歩みをスムーズにしたことだろう、これについての近い思い出は去年君が突然病魔におそわれたときのことである。

「やられた、脳溢血だ、と思った瞬間、夕べ飲んでおいてよかった」

と思ったという。あの時の言葉になると、もはや洒落ユーモアを超えて人生諦観の境地であり、悟道円熟の心境であった。このときこの話を聞いた我々は実に酸いも甘いもかみわけた多彩の経営者にして初めて自然にほとぼしり出る至妙の言だと感じ入ったものである。こうして、苦楽入り交い、禍福あざなう生涯を洒落のめして絶えず周囲の者に爆発を起こさせて愉快的空気をかもしださせ、しかも人に頼らず、他の面倒をあくまでも見てきた君は、まことに当代まれにみる『話せる教育者』であった。実に人間味豊かな先生であった。君の多年にわたるこの生きた薫染感化は幾百千の教え子の胸に魂として永久に生きるであろう。我々五人は君の死によってここに笑いの種を失い、扇の要をとられて、何とも言えない寂しさを禁じ得ない。が、しかし、君の三十年来の足跡を追憶し、是非とも、君のような人間味にあやかりたいと思っている。

〇〇君、君の一生は思えば幸福だった。今永劫の別れに際し何をか思い残すことがあるか。晩年君は家族のことを口にしていた。もっとも、その気持ちはわかる。

突如として起こった君の終焉に奥さんをはじめお子さんたち、まさに動哭范失の思い禁ぜぬものがあつた。それはそのはずである。しかし、そこは君の奥さんであり、君のお子さんだ、大きな生活力を持つ慈父を失ったご家族は殊に心境を新にして、一致結束、父の子として恥ずかしがらぬ人間、父いますときに劣らぬ和合を期しておられると思うし、親戚知己または支援を惜しまれることと信ずる。我々五人、幾十年厄介をかけつつ何ら報いるところもなかった償いとしても、君は後顧の念をいだかせてはすまぬことであると語り合っている。

〇〇君、君は徹底した幸福者だ。君の最後の身体を清めたのは焼酎だった。君の霊前の土産は君が自らさげてきた一升瓶だよ。そして多年愛好の釣竿を携えて、生前鯉を獲物したように、あの世の川でも大きな魚をたくさん釣り上げて楽しんでおくれ。

〇〇君、ここにこうして別れの言葉を述べながら、君の死の床に見た表情があまりに平和であり例の酔後の一垂れのままだったのでまだどうしても君の他界がピッタリこない気持ちである。すべてのことにトップをきった君は、第二の世界にまでトップをきって、我々をおいてけぼりをくわせてしまったのか。太った身体をチョコチョコと小刻みに歩く、あの世への君の死出の姿を想像し生前のような無礼講の蕪言を述べて、ここにお別れの言葉で終わることとしよう。

〇〇君、御機嫌よう、御機嫌ようー。

## 親友の死を悼む

〇〇君

君は私との年来の約束であった「私の弔辞を読む」ということを果たさずに先に逝ってしまった。私が君の弔辞を述べるということは予期しなかっただけに、この悲しみもまた大きいといえよう。

君は××県××町に生まれ十六歳の春、北海道に来て我が業界に足を入れたのである。それから四十五年、君は志士として働き、苦闘を重ねて今日のJ社を築き上げたのであるが、決して順風満帆をはらんだ進展ではなかったのである。これは君の努力勉勵の結果であるが、とくに戦時中の統制経済や事業整備、さては戦後の混乱期や、昭和二十七年の風水害に会して、その業態は実に苦しかったのであるが、よくこの危機を切り抜けたのも君の絶えざる努力と奮闘の賜である。その間、同業組合の役員としてその任務を忠実に果たされたことも、その功績は大きいものである。

この四十五年にわたる長い間、私は君と親しく交わりを続け、同甘同苦とともにきる斯業に励んできた。そしてお互いに心の灯としてきたのであった。

懷えば、その思い出は尽きないものであるが、なかでも、あの冬の北陸の旅で宿をとりはずし、膝を没する雪の道を助けあって、さまよったこともあった。宿に泊まって、用意の酒を飲みほして夜中にベルを鳴らして小言を受けたこともある。小料理屋で話の尽きぬままに数十本の銚子をあけて、夜の白むまで飲み続け、家人を心配させたことも度々あった。また組合の仕事のうえで議論を斗わせて、組合を出てからも街角で二時間、三時間も話し合っただけで警官に注意されたこともあった。

君は性格においても至って鷹揚であって、ことに動じない。そしていつもニコニコとしている。どんなことが起こっても決して急がず。「どうにかなる」と笑っている。これは、よほど腹の、できた人でないと、できないことで、事実どうにかなっていくのであった。この性格と反対の私は、ことごとくに急に物事を解決しようとするせっかちな性格であるが妙に気があっていたのも、陰陽のとりあわせがよくできていたのであろう。そして事業上でも、家庭のうえでも、事があるごとにお互いに相談し助け合ってきたのであるが、今君を失っては、両輪の片方をなくしたと同様に、どうにもならないことになって、悲嘆とか寂寥とかいう言葉では表し得ないものがある。しかし君の魂は極楽浄土の地にあって、ニコニコと座しているのであろう。君の教えの

「どうにかなる」という言葉も今日の場合にはとおらない。ああ、哀悼の極みである。

しかし、君の事業を継ぐに、子息××君は業界にも希に見る秀才であり、必ずや将来更に大をなす人である。君は極楽浄土にあって、その将来を見守ってくれることを願っておく。今、君のなきがらと永遠の別れを告げるにあたって心から哀悼の意を表して弔辞とする。

#### 同町内の知人の死を悼む（町内知人の弔辞）

〇〇君の霊に対して謹みて惜別の蕪辞を呈します。

君は、わが町内の有力者として、長年にわたって町内発展のため、率先御尽力致されましたことはまことに感謝の念に堪えません。わたし個人にとりまして無二の親友として、何かと御高導下さいましたことを、深く感謝いたします。

その君が忽然として黄泉に旅立たれましたことは、私たち一同の驚愕の上なく非嘆かぎりない極みであります。

ああ、瞼を閉じて去来するものは君の温顔、君の容姿、しかもあの元気な面影であります。

公共福祉のためには己をすてて義快心をもって、その目的達成のために尽力をいたされました君。他の町内に比較して、数々の難問題の山積みしていた我が町内を、今日のごとく立派にもりたてて下さったのは、実に、君のたゆまざる努力の賜ものであります。

とくに、かねてからの懸案であった「児童公園」設置に際しては、君の所有する土地を

無償提供せられまして、その上施設に対しても多大なる配慮を賜りました。近日、はなばなしい開園式を催すことになっていて、その喜びの日を目前に控えて、突如として逝去されたのは、まことに遺憾に堪えない次第であります。

開園式の当日には君の座席を用意しておくことは勿論、式が終わってから、関係者一同揃って君の霊前に感謝の報告にまいりますものですから、あの世で御覧下さいますよう、お願い申し上げます。

ああ、されど君。

我々は君の意志をつぎ、君の理想を理想として我が町内を一層栄えさせ大和の精神、協力一致の実をあげて、もって模範町内といたす覚悟でありますことをお誓いいたします。ああ、浄土の君よ、安らかに眠りたまえ。



## おばあちゃんの死を悼む(孫の弔辞)

お別れの言葉。おばあちゃんいつもかわいがってくれてどうもありがとう。外ではケガをしないように、寒くなったらカゼをひかないようにといつも心配して電話をくれたおばあちゃん。今年の正月もみんなに年賀状をくれて、とてもうれしかったよ。それから、おばあちゃんのお店の二階でみんなで騒いだら、階段の下から大きな声で「もう少し静かに」と怒られたこと。その声はいつまでも忘れることができません。もう一度大声で「こら、静かに」と怒って下さい。でも、とってもやさしいおばあちゃん。いつも口癖のようにお父さんお母さんの言うことをよく聞いてよい子になってね、それがおばあちゃんの願いだからね、と言っていました。僕たち私たちがそのことを忘れずに、きっとよい子になりますから、どうかおばあちゃん、遠い空から見守って下さいね。いつまでもいつまでも。愉快的やさしいおばあちゃん。さようなら。